

慢性痛
急性痛

藤井洋泉先生の今月のカルテ

vol.84

ペインクリニックの現場から

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生と藤井洋泉先生が、痛みの治療や緩和についての情報を届けてくれる「ペインクリニックの現場から」。前回に続き、下肢の痛みと血流障害に行う腰部交感神経ブロックについて話をしてくれま



■プロフィール ふじい・ひろみ 平成2年岡山大学医学部卒業後、同大学医学部麻酔科蘇生科入局、岡山労災病院麻酔科、岡山大学医学部附属病院麻酔科蘇生科などを経て平成19年から現職。日本麻酔学会指導医、日本ペインクリニック学会認定医。現在、国際疼痛学会、日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会などに所属

腰部の交感神経は、腰椎(ついで)の前側面を鎖状につながら、交感神経幹を形成しています。その途中に節のように太くなった交感神経節があります。この交感神経節に局所麻酔薬を作用させるの

腰部の交感神経は、腰椎(ついで)の前側面を鎖状につながら、交感神経幹を形成しています。その途中に節のように太くなった交感神経節があります。この交感神経節に局所麻酔薬を作用させるの

腰部の交感神経は、腰椎(ついで)の前側面を鎖状につながら、交感神経幹を形成しています。その途中に節のように太くなった交感神経節があります。この交感神経節に局所麻酔薬を作用させるの

腰部の交感神経は、腰椎(ついで)の前側面を鎖状につながら、交感神経幹を形成しています。その途中に節のように太くなった交感神経節があります。この交感神経節に局所麻酔薬を作用させるの

椎体の側面に当てながら椎体の前縁まで進めま。腰椎は、第1から第5。第2・3腰椎のレベルでブロックを行います。十分な効果が得られない場合は、第4腰椎レベルで行うこともあります。

腰部交感神経ブロックは、下肢の痛みの軽減や、血流障害を改善させる目的で行います。痛みの軽減を目的に行う時は、まず局所麻酔薬でのテストブロックを行います。

方法は、腹臥(が)位。あるいは側臥位で、X線透視で確認しながらブロック針を進めます。針は、改善し、下肢の温度上昇

下肢の痛みの軽減、血流障害改善に「腰部交感神経ブロック」効果の有無を確認するため、まずはテストブロックを

がみられたら、続けて長期間の効果が得られる方法をを行います。長期間の効果が得られるブロックの方法には、神経破壊薬(エタノールやフェノールクリセリン)を注入する方法と高周波熱凝固法があります。神経破壊薬を注入する場合は、薬がある程度広がるので効果が確実に広がります。しかし、ブロック後の安静(6時間程度)が必要である、薬がほかの部位まで流れてしまう可能性があるなどの欠点があります。

高周波熱凝固法は、針の痛みや、血流障害で悩んでいる方は、まずテストブロックを受けてみる適応の有無についてなど詳しくは、各病院でご相談ください。



お答えは、梶木病院(北区西花尻)の藤井先生で ☎086(2293)3355代